

# 水稲重点技術対策

## 2019年度インセンティブ買入制度

### 目標

- ① 慣行日本晴 1,000ha
- ② 特別栽培コシヒカリ 300ha
- ※ コシヒカリ認証③へのランクアップを（無化学肥料：農薬5割減）
- ※ コシヒカリタンパク含有率5.3%以下（食味値85以上）



## 1. リン酸・加里・カルシウムの補給を

近年、水田土壌の三要素の欠乏が問題となっているため、リン酸・加里ならびにカルシウムを中心に微量元素をバランスよく含んだ有機燃焼灰（ミネラルPK60kg/反）を圃場に施用し、稲作全般の収量や品質の安定を目指します。

### 現地試験結果

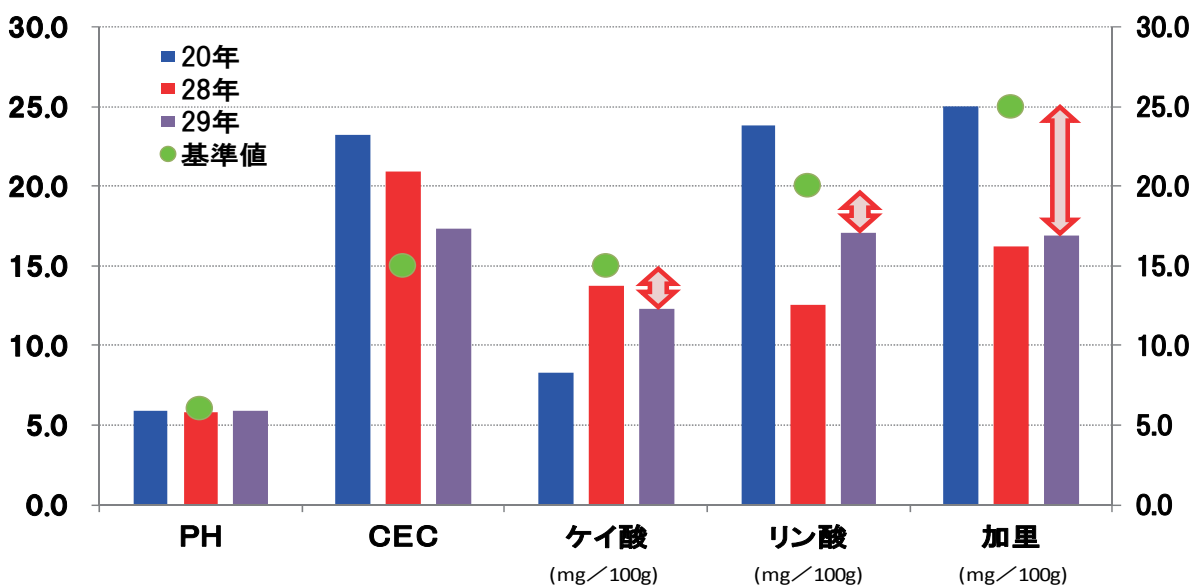
現地試験では、代掻き前のミネラルPKを施用した区は施用しない区に比べて収量が多くなり、タンパク含有率が低くなることで食味値が向上しました。



ミネラルPKの春施用試験結果 (kg/10a.%)

試験区	施用量	籾重	粗玄米重	精玄米量	タンパク量	食味値
ミネラルPK有	40	804	642	580	5.7	77
ミネラルPK無	—	741	583	546	6.3	72

(丹南農林総合事務所調べ)



※H29 土壌分析（126点）では、リン酸不足の圃場は全体の54.8%、カリ不足の圃場は全体の32.5%でした。

## 2. 品質・食味向上対策 ～高温障害・白未熟粒防止のために～

- コシヒカリ・あきさかりは登熟初期の高温による品質低下を防ぐため、出穂期が8月10日以降となるよう、播種期は平坦地で5月6日、山間地で4月25日以降、田植えは平坦地で5月24日、山間地で5月17日以降としましょう。
- 日本晴も同じく、播種期は平坦地で4月19日、山間地で4月6日以降、田植えは平坦地で5月10日、山間地で5月1日以降としましょう。
- 斑点米発生の原因となるカメムシの発生密度を減らすため、一斉草刈りデーにはカメムシ生息地の除草を行いましょ。あわせて品種別の団地的作付で防除効果の向上を！

## 3.食味 MAP・土壌診断 MAP を利用した肥培管理の徹底を！

- 登熟期の高温に負けない強い稲づくりのため、しっかりとした中干しと溝きりで無効分けつの抑制と直下方向への根の伸張を促進しましょう。
- 平坦地や特別栽培（無化学肥料栽培）では出穂期以降の栄養凋落が懸念されるため、穂肥の施用を省略せず、間断通水を徹底しましょう。

## 4. 鳥獣被害防止に向けて ～農作物被害ゼロ作戦～



J A越前たけふでは、県、市町、森林組合、猟友会、越前たけふ農業公社、生産者と連携して、イノシシ、サル等（カラス、シカ、中獣類＝ハクビシン、アライグマ等）の被害を抑えるために、対策を強化します。

## 営農情報メールサービスのご案内

J A越前たけふでは、天候、生育状況、栽培管理等のお知らせなど、農業に関するタイムリーな情報を、携帯やパソコンへメールでお届けしています。

営農情報は定期的に毎月配信するほか、台風の接近などの気象変動により緊急的に配信しますので、ぜひご登録ください。

